上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

国際協力
人材育成センター
SHRIC

SOPHIAで高度な教養と実践力を培い、国際貢献のステージへ

国際協力、国際機関への道

FOR OTHERS, WITH OTHERS

—— 他者のために、他者とともに

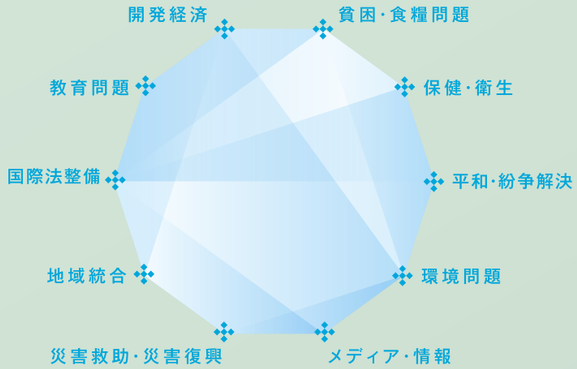
上智大学が掲げるこの教育精神は、国際協力を志す人たちに深く理解され、象徴的なマインドとして心に通じることでしょう。本学は、叡智と実践が結集された「国際協力、国際機関への道」を提供します。

国際協力の多面性

「国際協力」とは非常に包括的な概念です。解決すべき課題が、貧困問題、食糧・水問題、衛生、教育、雇用など多岐にわたる一方、その課題解決に取り組む単位も国家、国際機関、法人、企業、NGOやNPO、個人とその様態はさまざまです。
このような国際協力の多面性を整理し、自分の役割を見出すことが国際協力への第一歩といえます。まずは、国際協力の分野、構造・仕組みを整理してみましょう。

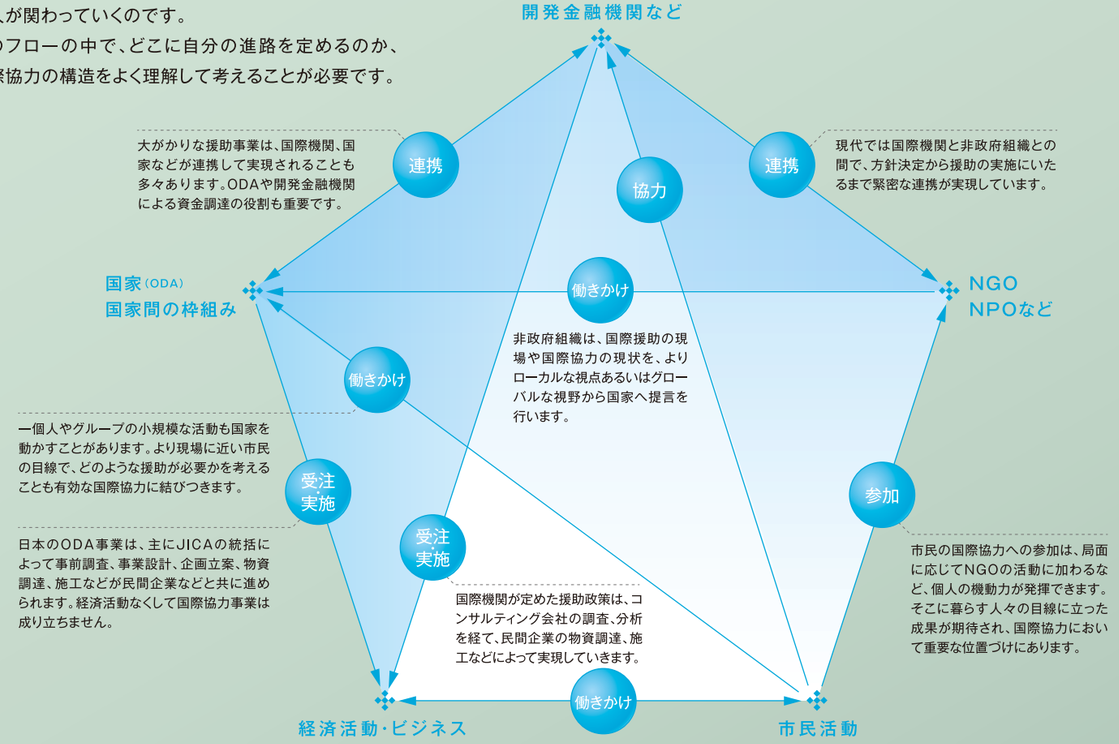
国際協力の分野

国際協力を必要とする課題は、ある一つの分野からのアプローチで解決できるものではありません。複合的な課題解決力と共に、ローカルな視点とグローバルな視野を身に付けている必要があります。例えば、貧困問題。食糧の供給を要すると同時に、持続的な解決に向けては、教育機会の提供、雇用の創出、産業の育成などに取り組むことも不可欠です。さらには、このような現状を世界に伝えるメディアの力も国際協力の一つといえるでしょう。このように、単一的な捉え方ではなく、立体的な課題の解釈の上で、自分自身が果たすべき役割を見つけていくことが肝要です。



国際協力の構造と仕組み

政府や国際機関のように、政策決定によって大きな力を動かす仕組みが国際協力には必要です。一方で、一人ひとりの草の根運動、市民目線でのNGOやNPOの活動も欠かせません。最近では国際機関とNGOやNPOとの連携が強化されており、国際協力の構造はより複雑化し、また連動しています。一例ですが、日本のODA方針によって定められた国際協力の取り組みは、それを実行するためにJICAによって企画、立案され、コンサルティング会社などの調査を経て実施にいたります。その際には企業によって物資、機器などが調達されたり、NGOが物資の配給に取り組んだりします。このように、一つの国際協力の取り組みを実施するフローにおいて、それぞれの機関、法人、企業、団体、個人が関わっていくのです。
このフローの中で、どこに自分の進路を定めるのか、国際協力の構造をよく理解して考えることが必要です。



国際協力、国際機関を目指すみなさんへ

上智大学 学長
総合人間科学部 教授
杉村 美紀

上智大学は、その教育精神「他者のために、他者とともに（for Others, With Others）」のもとに、困難な状況下にある「他者」に寄り添い、さまざまなグローバル課題の解決を目指すための教育・研究を展開しています。国際協力はそうした教育精神を具体化するものであり、これまでも国際機関等で活躍する人材を数多く輩出してきました。人間の尊厳と平和、そして持続可能な未来社会の構築に向けた実践的な学びに挑戦しています。

上智大学 国際協力人材育成センター 所長
グローバル教育センター 特任教授
近藤 哲生

上智大学国際協力人材育成センター（SHRIC）は、国際社会の課題に直面しながら生きる人間の尊厳と人権を守ることを使命とする国際協力人材を目指す学生の皆さまを高等教育の一環として応援しています。そのために国連職員や研究者など豊かな国際経験をもつ教職員が、さまざまな国際機関と協力して学生のキャリア形成をサポートします。いつでも気軽にご相談ください。

［表紙］ UN photo by 1Eric Kanalstein 2Martine Perret 3Marco Dormino 4WFP/Phil Behan 5Logan Abassi 6Albert González Farran 7Pasqual Gorriz
［本頁］ UN photo by 10Martine Perret
Photo: 8今村 健志朗/JICA, 9 11飯塚 明夫/JICA, 12 13久野 真一/JICA

国際協力分野で活躍するための道が上智にある

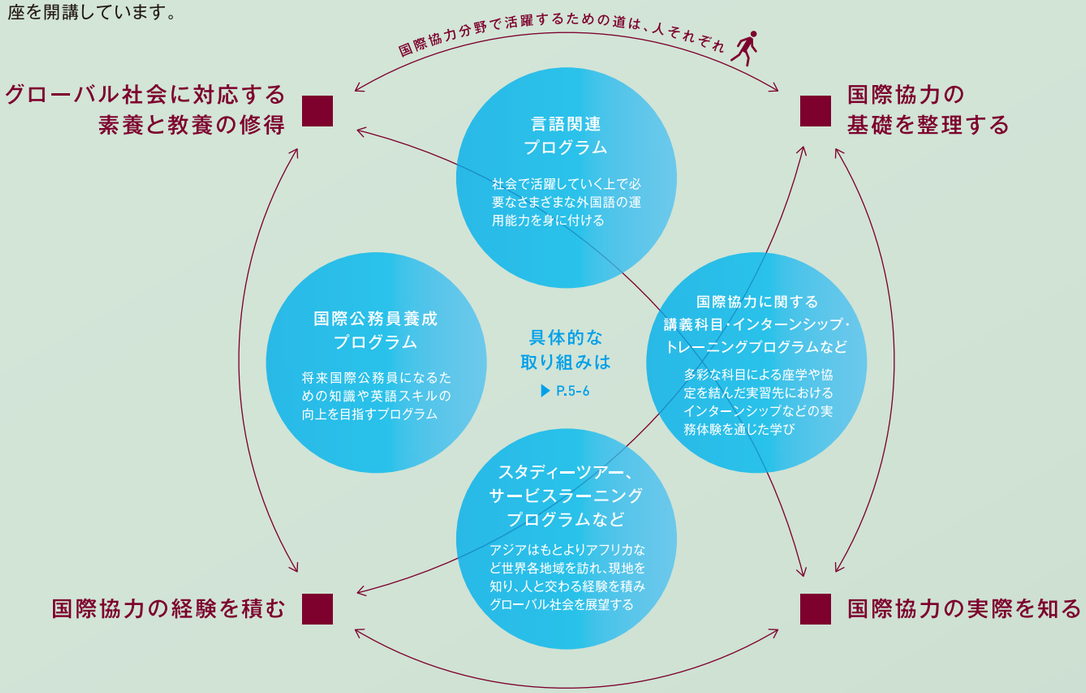
本学では国際協力への道筋として、基礎知識の整理から実務経験までのプログラムをラインナップ。
体系的でしかも、豊富なオプションが用意されています。

国際協力人材育成センターによるサポート

国際協力への道筋は、人それぞれの想いによって多様であり、その道を歩むためには、知識の体系的整理や実践的プログラムへの参加計画の立案などが必要です。国際機関やNGOの責任者など国際協力分野に携わるさまざまなアクターを招いてのキャリア・セミナーやトーク・セッションを頻繁に開催し、この分野に関心のある人たちとの交流の場を設けています。また国際公務員養成や緊急人道支援の公開講座を開講しています。

本学ならではの国際協力系機関との教育連携ネットワーク

国際協力、国際機関への道を体系的に整備するために、学外機関との連携が充実しています。国連の代表的機関WFP、UNDP、UNHCR、FAOをはじめ、アフリカ開発銀行、さらに各種法人、民間企業の協力も得て、国際協力の構造を多面的に理解する教育プログラムとして提示します。多くの卒業生が国際機関で活躍し、国際協力分野で実績を積み上げてきた本学の強みでもあります。



教育を提供する学内機関

グローバル教育センター

真のグローバル人材を養成するため、素養と教養を磨く多様な科目や海外勉学の機会を提供しています。グローバル社会の変動、発展に合わせて、教養教育の変革が求められているなか、同センターでは国際協力に必要な基礎事項を学ぶ科目から実務者によるレクチャー、研修プログラムなどを実施しています。

言語教育研究センター

本学が誇る語学教育の中心である当センターでは、多くの国際機関の公用語である英語、フランス語、イスパニア語、中国語をはじめ、22言語を体系的、レベル別に修得するカリキュラムを全学に提供しています。また、Language Learning Commons（LLC）、学習アドバイザー、外国語コミュニケーショングループ、ライティングチューターなど、語学学習の支援体制を整えています。

大学院グローバル・スタディーズ研究科 国際協力学専攻

多様化する「グローバルな課題」の解決を担う中核的人材の育成を目的として、「平和協力・平和構築研究」と「持続可能な開発／社会・教育開発研究」という2つの教育研究の柱の下で、実践型教育を意識した教員陣・教育課程の編成を行っています。教員陣は国際連合や専門的国際機関、国際開発金融機関、国際NGO、国際企業などでの実務経験が豊富な方々です。「国際協力学」の修士号が取得でき、多くの科目を平日夜間・土曜日ならびに集中講義として開講する時間割編成、「長期履修制度」を導入することで社会人を含む学びに対応しています。

▲ Language Learning Commonsの様子

▲ 第22回 国連Weeksシンポジウム「世界遺産：平和で持続可能な社会へ」基調講演の様子

グローバル社会に対応する素養と教養の修得

国際協力を志し、それぞれの立場でその企画、立案、実施に関わり、また国際機関などで成果を挙げるためには、単一的な専門知識だけでは太刀打ちできません。高度な素養、教養が必要になります。語学力を中心としたコミュニケーション能力はもちろん、現代のグローバル社会における課題、とりわけ国際協力を必要とする複合的な課題に対しては、さらに文化、宗教、歴史、政治、経済などの知識整理と応用力の修得が欠かせません。

国際協力の基礎を整理する

今日のグローバル社会では、国際協力の多面的構造を理解することが重要だと本学では考えています。それは、
❶国際協力は複合分野にまたがる総合力で達成されるものであり、同時にその実行プロセスにおいても多分野、多機関の関与が必要となる。
❷国際協力の分野、構造を知ることで自分の果たすべき役割分担が明確になり、その進路について道筋を得やすくなる。
といった効果が見込まれるからです。断片的、部分的ではない総合力を有する国際協力人を目指してください。

▲上智大学 実践型プログラム「東南アジアに学ぶB」

▲ 第22回 国連Weeks「国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ」基調講演の様子

国際協力の経験を積む

個人で社会活動に参加し、弱者に手を差し伸べることも国際協力のひとつです。一方、国際機関が実施するプロジェクトに参画し、チームの一員として役割を果たす経験も是非積んでもらいたいものです。理論だけではなく、実際の現場に足を運ぶことで、国際協力の組織や現場ではどのような職種、仕事が稼動しているのか、どのような課題に直面しながら事業が遂行されていくのか、肌で感じる機会にチャレンジしてください。

国際協力の実際を知る

国際協力は、現地のニーズに応えるものであると同時に、国際社会の協調につながる取り組みでなければなりません。その取り組みが、対象となる地域や国にどのような効果をもたらしたのか、その検証も重要です。国際協力事業が、一方的な押し付けや財政的に大きな負担を強いることになることを避けつつ、一刻も早く解決すべき課題が山積しています。その実施にあたっては、取り組みの「仕組み」、「資金の拠出」、「文化・宗教・言語の壁を越えた背景理解」など、国際協力の実情として知るべき事項が多くあります。

国際協力分野について学ぶ多種多様なプログラム

国際公務員養成プログラム

「国際公務員養成コース」「国際公務員養成英語コース」「国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）」「国際機関実務者養成コース」は、将来国際公務員を志す学生や一般社会人を対象とし、基礎知識・スキルの向上を目指して構成されたプログラムです。本学国際協力人材育成センターが運営しています。

国際公務員養成コース（春期・秋期）

年に2回、春期と秋期に各々週2回、6週間の集中講座です。国連と国連システムの組織、国際公務員人事制度などの基礎知識について学び、国連への採用プロセスや履歴書の書き方、筆記試験、コンピテンシー面接などの対策に向けた準備講座となっています。元国連事務局、ユニセフ、世銀などで人事官を務めた方々を講師に迎えています。

国際公務員をめざして（実務型国連集中研修）

夏期休暇を利用し、ニューヨークの国連本部で、国連の現職スタッフや経験豊富な元職員を講師に招き、5日間の集中研修を開催します。国境を越えたさまざまな問題に対処している国連や国際機関の役割は大変重要であり、本コースではそのような機関で働く職員を目指す方々を対象に展開されます。ニューヨークで開催されるこのコースでは実際の現場を身近に感じることができ、将来のキャリアプランがより具体的になるような効果を狙っています。

国際公務員養成英語コース（春期・秋期）

年に2回、春期と秋期に各々計12セッションで構成される集中講座です。授業はすべて英語で行われ、国連を中心とする国際機関で必要となる英語力の向上を目指し、文書の要約・メモの作成方法・効果的な議事録の取り方などより実践的な場面を想定した講座を提供していきます。

国際機関実務者養成コース（オンライン講座）

本講座は、国際協力人材育成センターと本学がバンコクに設立した教育研修事業会社Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd.（Sophia GED）が共同で開催し、週2回（計10セッション）オンライン授業を行う集中講座です。主に東南アジア地域で展開している国際機関の職員が講師を務め、社会開発分野や国際教育開発・協力分野におけるさまざまな課題についての見識を深め、実務的知識やスキルを学ぶことで将来の国際機関や国際協力におけるキャリア形成に役立てることを目的としています。

緊急人道支援講座

緊急人道支援に取り組むための基礎的知識やスキルを身に付け、その後のキャリアに生かしてもらうことを目的とし、年に2回、春期と秋期に各々週1回、計13回のセッションで構成される講座です。春期講座では、人道支援の基礎知識を学び、秋期講座では人道支援のスキルを身に付けます。講師は、国際機関やNGO、JICA、赤十字、民間などで緊急人道支援の最前線で経験を積まれた方々です。

ソフィア未来塾（高校生対象）

国際協力に興味のある高校生を対象に、オンライン講座を2024年に新しく開設しました。国連やユニセフ、国連難民高等弁務官事務所、国連開発計画、世界銀行などの現役および元職員が、豊富な経験を軸にグローバル社会が直面している諸課題についてわかりやすく解説。めまぐるしく変化する世界の今を展望し、これからのグローバル社会を担うみなさんと共に考えます。

ジュネーブ国際・開発研究大学院との3+2プログラム

スイスのジュネーブ国際・開発研究大学院（The Graduate Institute of International and Development Studies）は多くの外交官や国際機関職員を輩出している著名な教育機関です。本学と協力協定を締結し、学部で3（または3.5）年間学修後、先方へ進学し、2年間の修士課程で所定の成績を修めることにより、計5（または5.5）年間で上智の学士号と先方の修士号を取得できるプログラムを実施しています。

海外有力大学院への特別進学制度

国際機関を目指す場合、一般的に大学院を修了することが求められます。本学は、本学大学院のほかに海外有力大学院と特別進学制度の協定を結び、学生は、上智大学の推薦に基づき出願することによって、一般受験者より優先的に審査される、一部の費用が減免されるなどの優遇を受けることができます。

フォーダム大学大学院
（ニューヨーク）

国際政治・経済、開発を学ぶことができます。国連との連携も強く、国際機関へのアプローチとして適しています。

コロンビア大学大学院
（ニューヨーク）

Teachers CollegeとSchool of Professional Studiesで国際開発や国際協力等幅広い分野の学びを深めることができます。

ジョージタウン大学大学院
（ワシントンD.C.）

政治学、コミュニケーション、公共政策などを学びます。国際協力と国際機関を目指すためには必要な分野です。

ボストンカレッジ大学院
（ボストン）

教育政策や教員育成の分野において多くの人材を輩出している同大学院で、国際高等教育政策を学ぶことができます。

関連科目

基礎を学ぶ講義群

国際協力概論
―日本による開発援助の潮流と仕組み―

国際協力・開発援助の潮流と仕組みについて理解を深めます。国際協力へのアプローチ科目です。

日本外交政策

現役の外務省職員による講義を通じ、日本を取り巻くさまざまな国際問題について理解を深めます。

国際高等教育論①（歴史と変遷）

日本と世界の高等教育の歴史、現状と課題を通して、大学が果たすべき役割について考えます。

国際高等教育論②（国際化と国際協力）

国際化が急速に進む日本と世界の高等教育の現状と課題、国際社会の対応を理解し、大学の役割を探ります。

和平調停～世界各地で勃発する戦争を止めるために

現代の戦争を終わらせ持続的な平和に繋げるための課題やその方針について、理論と実践の双方から学びます。

自主研究（グローバル課題研究）：人間の安全保障と平和構築

安全保障と平和構築に関する歴史的変遷などについて知り、今後の平和構築の課題を議論します。

平和構築とメディア

現代における主な軍事・政治紛争をテーマに、その原因と解決方法を探っていきます。

国際開発金融機関論

経済の側面からグローバルな開発課題に取り組む国際開発金融機関の特徴、役割、活動などを学びます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT

未来に続く持続可能な発展のために果たすべき役割やその意義について、英語で考える機会を提供します。

SDGsの課題と可能性：企業と投資家の視点から

一般的な知識としてのSDGsではなく、企業・投資家という観点からSDGsを企業活動や投資の現場で実践していく際の工夫、努力、課題等を具体的に学びます。

実践型プログラム

国内外においてフィールドワークなどを通じて実践的に学ぶプログラムです。各プログラムは、本学の開講科目として取り扱われ、事前指導に全て参加し、研修において所定の成果を修めた者には、全学共通科目（選択科目）として単位が付与されます。

［アジア］
グローバルリーダーシップ・プログラム
AJCU-APサービスラーニング・プログラム
東南アジアに学ぶA／B
JWL・スタディーツアー

［日本国内］
日本のなかの多様性

［韓国］
アジアのなかの日本

［インド］
インドの社会経済・人間開発に学ぶ：南インドのケララ州を実例に

［インドネシア］
フィールドワークの実践を通じて学ぶマレー世界

［オーストラリア］
オーストラリア・サミット・プログラム

［アフリカ］
アフリカに学ぶA／B

［アメリカ］
国連の役割と機能（国連集中研修プログラム）
「世界がキャンパス」米国政治経済メディア現地体感実践プログラム
多文化共生社会のリーダーシップ

［スイス］
ジュネーブ国際機関集中研修プログラム

［エストニア］
エストニア・スタディーツアー：持続可能な社会構築に向けた教育の可能性

インターンシップ・トレーニングプログラムなど

- アフリカ開発銀行（AfDB）
- ACE（Action against Child Exploitation）
- インスティトゥト・セルバンテス東京
- チェコセンター東京
- 国際協力機構（JICA本部）
- 駐日カメルーン大使館
- 駐日メキシコ大使館
- 駐日パナマ大使館
- 国連本部とNGO・連携プロジェクト
- 駐日ブルキナファソ大使館
- Sophia Global Education and Discovery Co., Ltd.（Sophia GED）
- 国連食糧農業機関（FAO）
- 日本ユネスコ協会連盟
- 米州開発銀行（IDB）
- 国際移住機関（IOM）
- 国連工業開発機関（UNIDO）

国際協力分野の“今”を知るイベント

国連Weeks

上智大学では、2014年より毎年6月・10月に、国連各機関の協力を得て、グローバル課題を考え、議論し、理解を深めるイベント週間「国連Weeks」を開催しています。「国連の活動を通じて世界と私たちの未来を考えるとともにSDGsの促進に寄与すること」をコンセプトとして、さまざまな国際機関と共催・協力の上でシンポジウムを複数開催する他、映画祭なども行うことで、見る・聴く・対話するという中身の濃いイベント週間となっています。（後援：国連広報センター）

シンポジウム「SDGsに貢献する先端化学技術」（ハイフレックス）

2024年10月8日、人類の持続的発展を維持するための達成目標（SDGs）である地球温暖化防止やフードロスの課題について、株式会社本田技術研究所の橋本公太郎博士と北海道大学触媒科学研究所の福岡淳教授をお迎えし、ご講演いただきました。橋本博士には、Hondaが挑む二酸化炭素を増やさないカーボンニュートラルな自動車・空港燃料の開発について、福岡教授には触媒技術を用いた生鮮食品の長期保存についてなど、それぞれ最先端の研究をご紹介いただきました。

シンポジウム「自治体・企業の地域規模の気候変動問題への取り組み：地域開発・発展及び社会的課題とのインターリンケージ」（ハイフレックス）

2024年10月18日、グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ）との共催により、気候危惧の現状と、自治体や企業の先進的な脱炭素の取り組みと再生可能エネルギー導入について理解を深めるシンポジウムを開催しました。基調講演では、国連システム学術評議会（ACUNS）会長のフランツ・バウマン博士に気候変動の深刻さについてご講演いただき、続いて自治体、民間企業、学術機関の方々を迎え、2050年のカーボンニュートラル社会実現に向けたそれぞれの取り組みについてご紹介いただきました。シンポジウム後半では、さらなる再生可能エネルギー導入促進に資するためのコレクティブ・アクションについてパネル・ディスカッションを行い、意見交換をする貴重な機会となりました。

国際協力人材を育成する

「国際機関・国際協力キャリア・ワークショップ」

国際機関や国際協力分野でのキャリアを考える皆さんへグローバルキャリアのすすめについての講演や本学アドバイザリー・ネットワークである国際機関やNGO、民間企業で活躍されている方々が、ご自身のさまざまな経験、現在の仕事内容やライフワークバランスなどについてお話するキャリア・セッションを開催しました。

※所属機関名および役職名は開催日現在のもの

【2024年6月 登壇者（第21回国連Weeks）】

〈基調講演〉（ハイフレックス）

津村 康博 氏　国連世界食糧計画（国連WFP）日本事務所代表

〈ワークショップ〉（対面） ※所属機関五十音順

髙梨 寿 氏　前一般社団法人海外コンサルタンツ協会（ECFA）専務理事、元国連工業開発機関（UNIDO）工業開発官
美土路 昭一 氏　外務省国際機関人事センター課長補佐
岡野 恭子 氏　外務省国際機関人事センター課長補佐
近藤 哲生 氏　前国連開発計画（UNDP）駐日代表
ハジアリッチ 秀子 氏　国連開発計画（UNDP）駐日代表
山下 邦明 氏　元国連教育科学文化機関（UNESCO）職員
ロベルト・ベネス 氏　国連児童基金（UNICEF）東京事務所代表
上野 ふよう 氏　国連人口基金（UNFPA）駐日事務所長所長補佐
津村 康博 氏　国連世界食糧計画（国連WFP）日本事務所代表

【2024年10月 登壇者（第22回国連Weeks）】

〈基調講演〉（ハイフレックス）

伊藤 礼樹 氏　国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日代表

〈特別講演〉（ハイフレックス）

三上 知佐 氏　国連訓練調査研究所（UNITAR）広島事務所長 ※オンライン参加
ジョゼ・トゥシェット 氏　経済協力開発機構（OECD）統括局長

〈ワークショップ〉（対面） ※所属機関五十音順

美土路 昭一 氏　外務省国際機関人事センター課長補佐
白谷 雪乃 氏　外務省国際機関人事センター課長補佐
ジョゼ・トゥシェット 氏　経済協力開発機構（OECD）統括局長
ケイト・コンフォード 氏　経済協力開発機構（OECD）統括局参事官
ジャンリュック・マセラン氏　国連開発計画（UNDP）管理局人事部 Talent Acquisition and Partnership Specialist
近藤 千華 氏　国連開発計画（UNDP）アフリカ局TICAD連携専門官
伊藤 礼樹 氏　国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）駐日代表
浦元 義照 氏　GR Japanシニアコンサルタント、元国際労働機関（ILO）事務局長補、アジア太平洋地域総局長、元国連児童基金（UNICEF）専門職員

国際協力における重要な国・地域の現状を知る・学ぶ

アントニオ・グテーレス国連事務総長 特別講演

2017年12月14日、本学は国連事務総長として初来日したアントニオ・グテーレス氏をお迎えし、学生と市民を対象とした特別講演会「グローバル課題～『人間の安全保障』の役割～」（Special Lecture “Global Challenges: The Role of Human Security”）を開催しました。グテーレス氏は、大学や市民社会が「人間の安全保障」についての知的な議論を続け発展させることで、世界中の多くの政府が、この概念を使って紛争予防、持続的開発、持続的平和作りというグローバルな課題に取り組むことを促すことができるはずだと、会場を埋め尽くした研究者や学生達に向けてエールを送りました。講演会は、本学の東大作教授が交渉を行い、当日の司会も担当しました。

シンポジウム「中東和平を考える」（ハイフレックス）

2024年6月10日、第21回国連Weeksにて、イスラム組織ハマスによるイスラエル攻撃、そしてイスラエルの報復と、中東の和平実現はさらに遠のいている中、国際的にまた各国はどのような対応ができるのかを考えるシンポジウムを開催しました。NHK解説員である出川展恒氏、防衛大学校総合安全保障研究科の江崎智絵准教授、本学総合グローバル学部の前嶋和弘教授を迎えて、発生から10ヵ月が経過するガザ戦争の歴史的背景やパレスチナ問題に関して議論を行っていただきました。今後の和平実現に向けて考える機会となりました。

「国際機関セミナーシリーズ」No. 39 欧州復興開発銀行（EBRD）キャリアセミナー「EBRDの活動と地経学の時代」“EBRD in An Age of Geoeconomics”

さまざまな国際機関との共同で機関をより身近に感じ理解してもらうことを目的にセミナーを企画しています。2024年6月、欧州復興開発銀行（EBRD）の本部があるロンドンより事務局長の小口一彦氏、東京事務所長の大矢伸氏、事業開発担当プリンシパルの田中孝学氏を迎えて、キャリアセミナーを開催しました。EBRDの紹介や国際開発金融機関に携わるためのキャリアパス、実際の応募につながる情報などについてお話いただき、将来、国際機関や国際協力分野でのキャリアを志す学生、一般社会人にとって有益なセミナーとなりました。

「国連職員と話そう！」

国際協力人材育成センターでは、「国連職員と話そう！」と題して、現役で活躍中の国際機関職員や国際機関での経験が豊富なゲストを招き、これまでのキャリア形成や業務内容についての講演や参加者からの質問にお答えするキャリアセミナーを開催しています。

（写真は2023年10月30日、国連WFP日本事務所代表 津村康博氏によるオンライン講演の様子）

2023年10月30日に第33回「国連職員と話そう！」をオンラインで実施しました。国連世界食糧計画（国連WFP）日本事務所代表の津村康博氏をお迎えし、センター所員の小松教授（総合人間科学部教育学科）がモデレーターを務めました。津村氏からは、国際公務員を目指したきっかけからご自身のキャリアについて、またアフリカを中心としたフィールドでのご経験やWFPの活動内容、将来の展望など、さまざまなお話を伺うことができました。また多くの質問や相談が寄せられ、それぞれにお答えいただきました。オンラインでありながらも登壇者との交流の場となり参加者から好評を得ました。

上智ならではの国際協力機関とのネットワーク

国際機関・国際協力系機関などとの教育連携

本学は、今日の国際協力の多面的構造を理解し実感する教育プログラムを構築するために、
多くの国際機関、国際協力機関、法人、民間企業と教育連携協定を締結しています。
その内容は、インターンシッププログラム、シンポジウムの共同開催、授業科目への講師派遣など多彩です。

国連人口基金（UNFPA）

性と生殖に関する健康・権利（SRHR）を全ての人に保障するために取り組む国連機関。活動理念は「すべての妊娠が望まれ、すべての出産が安全に行われ、すべての若者の可能性が満たされる世界を実現すること」。本部は米国・ニューヨークにあり、約150か国以上で活動しています。

国連世界食糧計画（国連WFP）

飢餓問題の解決を目指す国連機関。緊急支援を行う一方で、飢餓のない未来をつくるための中長期的な支援も行っています。本学はアジアで初めて国連WFPと協定を締結し、シンポジウムやセミナー開催、学生食堂ではWFPメニューを展開するなどの啓蒙活動も行っています。

国連食糧農業機関（FAO）

国連食糧農業機関（FAO）はWFPと同様に飢餓の撲滅に取り組む国連機関です。すべての人々が栄養ある安全な食べ物を手に入れ、健康的な生活を送ることができる世界の実現を目標とし、食料生産やその分配など持続的な生活の向上を目指し活動する国際機関です。

国連開発計画（UNDP）

貧困の根絶や不平等の是正、持続可能な開発を促進する国連の主要な開発支援機関です。「国家にとっての真の宝は人々である」という信念に基づき、人々や国々の能力を育てSDGsの達成を支援する活動を、約170の国・地域で行っています。

国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）

難民支援の問題には、紛争、迫害から自然災害までさまざまな要因があります。難民の保護、支援から恒久的な課題解決までを目指し活動する国際機関です。

国連教育科学文化機関（UNESCO）

教育、科学、文化の国際協力を通じて、平和と人類の福祉の促進を目的とします。本学の取り組みではカンボジアアンコール遺跡の保存・修復活動が有名です。

国連訓練調査研究所（UNITAR）

スイス・ジュネーブを拠点として、外交・経済発展・環境・平和・復興といった多分野において世界中で研修を実施する国際機関。日本では広島事務所を開設し、主に紛争後の復興や起業家、軍縮、リーダーシップ・エンパワーメントに関する研修を行っています。

国連大学（UNU）

グローバルなシンクタンクであり、大学院の教育機関で、本部を日本に置く。人類の生存、開発、福祉など国連とその加盟国が関心を寄せる地球規模の緊急課題を研究しています。本学の学生は国連大学との共同ディプロマコースに参加することができます。

アフリカ開発銀行（AfDB）

アフリカの開発支援を行う開発金融機関。国際協力における資金の動きやアフリカでの実際の取り組みを知る機会が提供されます。

経済協力開発機構（OECD）

OECDは、世界中の人々の経済的・社会的福祉を向上させる政策を推進することをその使命としています。2019年にインターンシップ派遣に関する協定を締結。本学学部生・院生を優先的に受入れていただき、キャリアセミナー等でも協力しています。

国際協力機構（JICA）

日本のODAを一元的に実施する世界最大規模の援助機関。発展途上地域では、現地の人達からJICAの取り組みについて多くの賞賛の声が聞かれます。

国際協力推進協会（APIC）

国際協力推進の諸事業を展開する内閣府の認定を受けた財団法人。この連携の下でミクロネシアからの留学生が本学で学んでいます。

国連アカデミック・インパクト

国連広報局による国連と高等教育機関との連携を促すプログラム。本学は、人々の国際市民としての意識を高め、平和、紛争解決を促し、貧困問題に取り組み、持続可能性を推進することなどを謳っています。

国連グローバル・コンパクト

各企業・団体が、持続可能な成長を実現するための世界的な枠組み作りに参加するプログラム。その理念は人権の保護、環境への対応などの活動で具現化されます。国連Weeksでは、本学と共催イベントを継続して実施しています。

米州開発銀行（IDB）

中南米・カリブ加盟諸国の経済・社会発展に貢献することを目的とする国際金融機関。本学とIDBによる共同研究やシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップ実施などの分野で連携を強化していく予定です。

日本ユネスコ協会連盟

日本国としてUNESCOに加盟する以前に、UNESCO憲章の理念に共鳴した人々によって設立された団体です（前身は「日本ユネスコ協力会連盟」）。本学と同団体は共同して国際協力および平和構築のための社会貢献活動を行っていく予定です。

アジア開発銀行（ADB）駐日代表事務所

アジア開発銀行（ADB）はアジア・太平洋諸国の経済・社会開発の促進を目的とする地域開発銀行です。本学との教育連携ではシンポジウム・セミナーの開催、本学学生のインターンシップなど訓練機会の提供、知識共有活動を行っています。

セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

「子どもの権利」のパイオニアとして子ども支援活動を専門に行う、子ども支援専門の国際NGOです。日本国内では貧困問題解決や虐待の予防などに向けた事業や東日本大震災や熊本地震における緊急・復興支援を通して「子どもの権利」を実現する活動を行っています。

国際協力分野で活躍するアドバイザリー・ネットワークがあなたの将来について助言します。

国連人口基金
（UNFPA）
駐日事務所長
成田 詠子さん

国際機関で働く上で大切なスキル

国際機関で働く上で大切なスキルは、「相手のことをよく知ること」と「コミュニケーション」です。コミュニケーションでは、言葉のみに依拠するのではなく、相手との接し方も重要となります。人にはそれぞれのコミュニケーションスタイルがあります。国際機関のように世界中のさまざまな国々出身のスタッフと働くとき、目の前の相手のことをよく知ることが重要です。文化的背景の違いにより、コミュニケーションの仕方は大きく異なりますが、相手との対話のなかで「『何』を本当に言いたいのか」という「意図」や、「『なぜ』それを言いたいのか」という「理由」を知ることにより意思疎通が出来るようになります。また、自分が話す時の言い方、タイミング、速さなどが、相手に効果的に伝えるために適しているかどうかを常に意識することは容易ではありませんが非常に大切です。

PROFILE
アメリカのコーネル大学で学士号、ハーバード大学で修士号、千葉大学で博士号取得。2003年、国連経済社会局（UNDESA）コンサルタントとして国連機関でのキャリアを開始。2006年よりジュニア・プロフェッショナル・オフィサー（JPO）としてフィジーに勤務後、国連本部ニューヨーク、ラオス、イエメン、タイ、バングラデシュ事務所を経て2022年10月より現職。

元国際労働機関（ILO）
アジア太平洋地域総局長
浦元 義照さん

弱者との出会い―国連との出会い

2年間暮らしたガーナでの出会いが国際協力をキャリアとするきっかけになったと言っても過言ではない。半世紀も前になるが、首都アクラからクマシを経て数時間北へ車で走るとそこは広大なサバンナだった。雨季に突然大粒の雨が降り落ちると、子どもが満面の笑みを浮かべ飛び跳ねる。そして赤い雨水が大地を覆う。乾燥と熱気のサバンナで伝統的な農耕をする人々は貧しい。サハラ以南のアフリカ諸国は独立後も未だ10人に4人以上が貧困層で基本的な医療保健や教育は満足できるレベルではない。なぜ未だあの笑みを満面に浮かべた子どもたちに明るい将来図が描けないのか?SDGsは貧困と格差に喘ぐ10数億人の弱者の夢だ。私はそう思いながら40年近くアジアとアフリカの開発現場で働いた。国連職員に必要なのは熱意、専門的知識と英語といわれるが、私の原動力は弱者に対する尽きない興味と探究心であり、国連でのキャリアを支えたのは現場で勇気をくれたかけがえのない人たちとの出会いだった。国際機関に就職を希望する方々は、まずは自分が関心を抱く地球規模課題を見つけることが重要。また課題を現場で体験することも必要だ。国際機関は志の高い若者を探している。

PROFILE
国際協力に40年間にわたり従事。1978年より国際連合児童基金（UNICEF）に勤務。日本兼韓国の代表、東ティモール特別代表を含め開発現場に25年。その後、2007年より国際連合工業開発機関（UNIDO）事務局事務次長、2012年国際労働機関（ILO）アジア太平洋地域総局長に就任。2015年上智大学特任教授として教鞭をとる。2023年2月よりGR Japanシニアコンサルタント（公共政策）。

国連訓練調査研究所
（UNITAR）
持続可能な繁栄局長
隈元 美穂子さん

激変の時代だからこそ国際協力は必須、若者の参加は欠かせません

皆さん、こんにちは。国際連合に勤務して約25年が過ぎようとしています。これからの将来を担う皆さんに、ぜひ国際問題や国際協力に興味を持っていただきたいと心から思っています。国連を含む国際機関の仕事はとても多岐にわたっています。貧困、教育、経済、環境問題、気候変動、平和、ジェンダー、保健衛生、デジタル技術など非常に多彩です。そして今後も時代の流れに沿って新しいグローバル課題が生まれてくることは容易に想定できます。国境を飛び越えて、世界の人々と一緒にグローバル問題に取り組んでいく。決してすべてが万事いいことだらけではありません。グローバル課題は問題が多く、いろいろなハードルが存在します。しかしながら、このような複雑かつ広範囲な問題の解決のために、さまざまな国籍や背景の人々とチームを組んで取り組んでいく国際協力という仕事は、何事にも代えがたく、人生をかけるに値する仕事だと思っています。ぜひ、みなさんにも国際問題、国際協力に興味をもっていただきいろいろな事を学んで、考え、行動に移していってもらえたらと心から望んでいます。

PROFILE
九州電力勤務を経て、国際連合での勤務は約25年に及ぶ。その間、国連開発計画（UNDP）ニューヨーク本部、ベトナム事務所、サモア太平洋地域事務所、インドネシア事務所にて活動。2014年より国連ユニタール広島事務所長、2019年7月より持続可能な繁栄局長を兼任。2023年11月より現職。

上智大学 国際協力人材育成センター アドバイザリー・ネットワークについて

国際協力人材育成センターでは、国際協力分野で活躍されている有識者をアドバイザリー・ネットワークのメンバーとして組織化しています。上記の3名をはじめ、国際機関、NGO、民間法人など多種多様な所属や経験をお持ちの方々から協力を得ています。具体的な活動としては、国際協力分野での活躍を目指す若者へのキャリア支援を行います。また、直接有識者の方と話すことができ、国際協力分野における貴重なロールモデルと出会う機会となる交流会も、定期的に開催していく予定です。

国際協力、国際機関で活躍する先輩たち

自己を知り、好奇心・探求心を持ちながら人生を創り出す

国連児童基金（UNICEF） 南アフリカ事務所
教育部長
吉本 華さん
2001年 比較文化学部* 比較文化学科 卒業
*現国際教養学部

ヴァイオリニストになる夢を諦め、自己喪失感を埋めるため、大学時代カンボジアへ海外ボランティアに参加。大学ではクリティカルシンキングの能力を磨きました。「学ぶ」というより、自己を深く知る「気づき」の時期で、論理的に人生設計をする期間でした。卒業後は外資系金融に就職。その後、国際教育を学ぶために渡米。世界銀行本部に就職し、教育リサーチの仕事に従事。国連児童基金（UNICEF）に転職後は、ソマリアとエジプト国事務所で教育政策の作成、カリキュラムや教育育成の枠組み作りなど、国家改革に大きく貢献しました。国連機関の出向制度を利用し、国連教育科学文化機関（UNESCO）でも勤仕。現在はUNICEFに戻り、ママ業の傍らExecutive MBAを取得し、己の多様性を磨いています。自分のクリエイティブな人生を切り開く力を若い時から培ってください。

チャンスを生かして夢に到達して下さい

外務省
国際協力局事業管理室
課長補佐
中野 美智子さん
1996年 外国語学部
ドイツ語学科 卒業

中学から外交官に興味を持ち、大学では国際関係論の副専攻を履修して、将来開発協力に関わりたいと強く思うようになりました。卒業後外務省に入り、ドイツでの勤務、外務本省での日独外交、アジアの開発協力、障害者権利分野での勤務を経て、ラオスで広報文化外交に従事。再び本省に戻り国際機関への就職を支援する業務に携わった後、現在事業管理室でODA関連の業務を行っています。外交の道は、専門地域との二国間外交、分野の専門を極める業務、国連などのマルチ外交等さまざまで、それぞれに魅力があります。留学、インターン、セミナー等の機会や情報は上智に豊富にありますので、活用しない手はありません。自ら参加、体験し、人と会い、語ることでその先に進む新たなインセンティブが生まれます。是非チャンスを生かして夢に到達して下さい。

常に現場を歩き、弱い者の立場に立つということ

特定非営利活動法人
ピースウィンズ・ジャパン代表理事
Asia Pacific Alliance for Disaster Management CEO
経済同友会副代表幹事
大西 健丞さん
1991年 文学部
新聞学科 卒業

組織を動かすための資金調達と人材の確保が私の大きな仕事です。国際協力から、過疎地の再生や動物福祉まで、最近は活動の幅が大きく広がっているので、組織の形態もそれに合わせて変化させています。在学中、ボネット神父や故・村井吉敬先生のゼミで影響を受け、国際協力分野を目指すように。「常に現場を歩け、弱い者の立場に立て」と言われ続けたことが、今の仕事につながっている気がします。国際関係だけでなく、自然科学から人文科学まで幅広く学びました。世界のNGOの中には、国連機関の予算を凌駕するような規模の団体も出てきています。国際協力を志すみなさんは、国連だけでなく幅広い組織・団体を見て、今後伸びていく組織形態や事業形態を見極めて進路を選ぶことを勧めます。

恩師に恵まれたおかげで、国連の仕事の基礎力が培われた

国連ホデイダ合意支援ミッション副代表
山下 真理さん
1988年 法学部国際関係法学科 卒業

子ども時代をドイツやインドで過ごした経験から、高校生のときに将来は国連で仕事をしたいと思うようになりました。上智大学では国際政治学の猪口邦子先生、のちに国連難民高等弁務官として活躍された故・緒方貞子先生などの恩師に恵まれ、国連で仕事するために欠かせない基礎力は四谷の4年間で培われたと言えるでしょう。また、英語でアカデミックな文章を記述したり、プレゼンテーションをするスキルも上智大学で徹底的に鍛えてもらいました。国連の仕事に最も必要なのは「情熱」です。ぜひ勇気を持って、世界に貢献できる仕事に挑戦してください。専門分野の知識や語学力はもちろん必須ですが、それ以上に「国連で働きたい」という強い意志が原動力となるでしょう。

途上国について多くのことを恩師から学ぶことができた

独立行政法人国際協力機構（JICA）
安全管理部 課長
國武 匠さん
2006年 外国語学部英語学科 卒業

アフガニスタンや国連食糧農業機関（FAO）本部での勤務を経て、世界最大の貧困人口を抱えるインドの農業・森林管理事業、ジェンダー平等推進に携わってきました。現在は南アジアとアフリカ各国の政治や治安分析を行っています。
上智大学では英語学科に入り国際関係論を副専攻として選んだのですが、そこで出会ったのが都市の貧困問題を研究されている下川雅嗣先生*でした。先生から、途上国と日本との関係について多くのことを学び、私が今取り組んでいる仕事の基盤ともなっています。異なる考え方や価値観を理解し尊重しようとすることが、海外で働く中で信頼関係を築く方法だと思います。ぜひ学生時代にいろんな経験をして、多様な価値観に触れてください。
*現総合グローバル学部教授

終わりなき探求心を持って

国連世界食糧計画（国連WFP）
古田 到さん
1996年 外国語学部英語学科 卒業

国際協力の道を志したのは「一つでも多くの国を訪れたい」と、「人を支援する仕事がしたい」という二つの強い思いを叶えられると考えたからです。現在、ソマリアにて、食糧支援をはじめとした数々のプロジェクトを運営しています。先進国のように設備が整っていない途上国の環境に慣れていくことや、人々の多様な感覚に戸惑いながらも理解すること、試行錯誤を通して現地の政府や団体と粘り強く交渉することは当然ながら一朝一夕ではできません。まずは学生時代にどんな形でも良いから世界に飛び出してみて自分なりのやり方を模索してほしいです。ずっと探究心を持ち続けてください。

学生時代に受けた刺激や学んだ基礎知識が将来キャリアの糧になる

赤十字国際委員会（ICRC）
保護部次席調整官
淡路 愛さん
1994年 法学部
国際関係法学科 卒業

学生時代から国際情勢に関心が強く、卒業後は通信社に就職し、国際ニュースの取材に携わった後、ICRCに転職。ICRCでは紛争地で、国際人道法違反の事例を調査して紛争当事者の軍や武装勢力と対話したり、一般市民の生活を守る支援を行ったりしています。上智大生時代に受けた刺激や国際法の基礎知識がいつも自分のコアにあり、無意識に今のキャリアに導いてきました。通信社のニューヨーク特派員として国連本部担当になった時、国際政治学の猪口邦子先生がジュネーブ軍縮代表部大使当時に取材で再会した時やICRCが学生時代に夢中になって勉強した国際人道法の番人的な組織であると知った時も不思議な縁を感じました。ぜひ自分の足や目で事実を確認し、人に会って話を聞く体験を大切にしてください。その過程で育んだ感性がのちにキャリアの糧になります。

上智大学
SOPHIA UNIVERSITY

上智大学公式HP
国際協力人材育成センターHP
https://www.facebook.com/SophiaHRIC/
@SHRIC2015 @shric_sophia

〒102-8554 東京都千代田区紀尾井町7-1
［国際協力人材育成センター（1号館1階 SFDP推進室内）］ TEL：03-3238-4687
［入学センター（12号館1階）］ TEL：03-3238-3167 FAX：03-3238-3262

2025年3月/国際協力人材育成センター